



## 認知症キッズサポーターになろう！

～認知症の方々が安心して暮らせるために僕たちができること～

とき 10月19日(土) 午前10時～11時30分

ところ 練馬区役所 (練馬区豊玉北6-12-1)

19日、練馬区役所で小学4年生から6年生までの児童と保護者を対象にした「認知症キッズサポーター養成講座」が開催され、約30組の親子が認知症の症状や認知症の人との正しい接し方を学んだ。

高齢化が進む中、練馬区でも5人に1人が65歳以上の高齢者(約147,000人)であり、何らかの認知症の症状のある人は2万人を超えているという推計がある。認知症の人は、身近な人の理解や手助けがあれば、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるといわれている。そこで区は、子どもたちが認知症への理解を深め、家庭や地域で高齢者を温かく見守り応援していけるよう今回の講座を開催した。

講座では、自分の家族が認知症になった場合を考え、「ご飯を食べたことを忘れてしまう」、「財布がなくなったと思い込んでしまう」、「夜に起き出して行動してしまう」といった症状について、クイズ形式でそれぞれの接し方を学んだ。言動を否定せず受け入れてあげることや、優しく声をかけ、一緒に考えてあげることが大切という講師の説明に、子どもたちは真剣に聞き入っていた。講座終了後には、サポーターの印であるオレンジリングと区のキャラクター「ねり丸」入りのキッズサポーター認定証が配られた。参加した4年生の男子児童は、「離れて暮らすおじいちゃんとおばあちゃんが認知症になったときのことを考えました。田舎に帰った時にやさしくしてあげたいです」と話していた。



講座の様子



講座の様子

### 【認知症サポーターとは】

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者のこと。認知症の人や家族が穏やかに日常生活を送るためには、まわりの人の理解や応援が不可欠であり、都道府県や区市町村等が実施主体となり全国で認知症サポーターを養成している。

練馬区でも平成19年度から一般区民向けや商店などの事業所向けの「認知症サポーター養成講座」を実施。これまでに10,116人(25年9月末現在)のサポーターを養成している。

核家族化が進み、子どもが高齢者と接する機会が少なくなっているなか、思いやりの心を育む小学生の時期に認知症について学ぶ意義は大きい。区は、今後、児童館や学童クラブなどで実施する児童向けの「認知症キッズサポーター養成講座」の取り組みも充実させ、認知症の人たちが安心して暮らせるまちづくりにつなげていきたいと考えている。